

小學修身書

初等科之部
卷一

K110.1
235J
2

K110.1

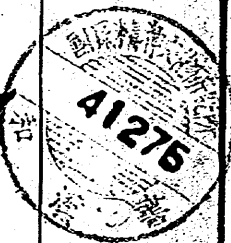
235J

明治十六年六月印行

小學修身書



文部省編輯局

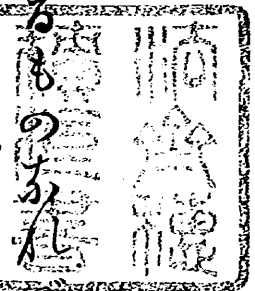


41275

小學修身書

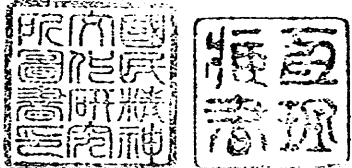
教師須知八則

複讀重
速藏書



一 此書ハ古人の名言を輯録したるものなるハ
小學童生をして常々之を暗誦せしめ以て徳
性を養ふの資となすべし。小學讀本の如き文
字を教ふるを以て主眼とするものといハ其主
意同トからん。

一 此書ハ童生の務めて暗誦せんを要すとい
へども是固と其徳性を養はんがためス。



小學修身書

卷之二

文部省

せしむるものあれば。教師たるものを。其力を唯暗誦の教授のみふ用ひず。善く童生平常の言行ふ注意し。成るべくい。編中の語を引證して。是を稱し。非を戒め。驅て而して善ふ之かむむる。

一 平常口授する所ふして。德行よ有益なる古今の人の行狀等も。務めて編中の語ふ引き當て。以て相發明すべし。

一 編中舉ぐる所の諸章は。大抵男女ともは通じ用ふべし。故ふ兄弟といへる中ふを。姉妹もこ

もり。子弟といへる中ふは。女兒もふくめること知るべし。

一 我が國の人々い。貴賤の別なく。幼き時より。皇室を尊ぶの念を興ふさずいあるべからば。是我が國體の。外國と大は異なる所あるを以てあり。教師たるもの。反覆丁寧ふ此理を説明し。童生をして。熟く是を會得せしむべし。

一 編中の諸章は。皆先哲の言ふまじ。其君といひ主君といへるい。大率當時の國君を指すものなり。然まじも今日ふ於てい。皆是を吾が

皇上の上不遷一參らばべし。漢土ふても。孔孟の君よ事ふる道を説き給へる。概ね前説の如きものあれども。後人の其道故以て。天子不事へたり。是こ異なるをなきあり。

一此不輯録する所の先賢の名言は。則ち其著述の書中よ就きて。或い編章を節略し。或い字句を刪削して。以て之を採まり。然まごも。務めて原文の主意を存して。著者の意を失ふとふし。一肄業日數は。首卷末則の如し。尤も第一卷は。一日ふ二行以下。其他は。大抵二行半程を授く。

小學修身書卷之一

第一章

父母の恩きをままりなまこと。天地ふひこし。父母なくんべ。何ぞ我あらん。其恩海よりふかく。山よりたかく。海山いかぎりあり。父母のめぐみいかぎりなし。いかにして其恩をむくいんや。たゞ孝

を行ひて。其恩の萬一を報ずべし。大和俗訓
さて第一よ心得べきこと。いか不ど父
母の身を孝養すことも。其心を安んぜず
しては。大なる不孝といふべし。何事も
父母の教訓よたがなは。世法をおもん
ど。よく身をまもり。家をたもつべし。其
子のかくのごこくなるを見ては。父母
の心中。いり不このあんど。いかほどの

喜びごか志る。是を父母の志しを養ふ
といふあり。たゞ常に思ふべし。をしむ
べきは。父母存生の日なるを。今此時
不及びて。孝養をいたさば。父母死し
て後。いか悔ゆとも。かへるべきや。六諭
衍義大意

第二章

親類一門多しといへども。父母を去り

てい。兄弟はご親しきいなく。い。かんで
 おる。う。ます。べ。けん。や。大和中庸
 兄弟の愛敬。たごへ。い。兄弟を愛をれ
 ごも。弟。兄を敬い。ごも。小。兄腹をた
 て。又弟を愛せ。ごも。い。道。よ。非。ど。弟。い。兄
 を敬へ。ごも。兄。弟を愛せ。ごも。い。小。弟
 腹をたて。又兄。我。敬い。ごも。い。道。よ。非。ず。
 人。い。免。も。つ。れ。角。も。あ。れ。我。い。我。が。一。ぶ

んの道をはくして。人の悪しきを學ぶ
 べからず。大和小學

第三章

君の恩い。其土地より生ずる穀を食し。
 其國小居るもの。み。ふ。君の徳。我。以。た。ぶ。
 くなり。君。ふ。々。れ。べ。強。き。い。弱。き。を。お。か。
 し。智。い。愚。ふ。る。もの。を。あ。ご。む。ま。政。教。刑
 罰。ふ。き。時。い。手。足。を。措。く。所。な。く。大。亂。の

本ふり。日新館童子訓

國法をおそれ守り。上たる人乃行ひ。國家の政をそしるべからず。上をそしり。國政をそしるは。是大なる不忠不敬のいたりなり。つゝむべし。家道訓

第四章

道の教へをうけたる師へ。其恩ふかきと。君父よひとし。其苦勞乃恩わさるべ

からず。大和俗訓

弟子の道。第一小師を尊信して。先生の教諭小戾らず。其教へを則こして。胸中小一毫も自見残立てば。ひたすら小師にうくる所の業を精勤して。身の及ばざる所をかへりみて。隠すとなく。犯すとなく。打ちあけて教へを乞ひ。聊かも驕慢の心ふるを。日新館童子訓

國小てい主君家よてい父兄を始めこ
し。位高き人。道德の尊き人。學識の勝れ
たる人。年老いたる人をバ。みあしくあ
がめりやまふやうふ。心がくべし。和語
陰騰

第五章

親しき人を愛して。貴き人をうやまふ
いふふ及ばず。うやまき路人は對すこ

も。其分よ志たがひて。愛敬すべし。ふく
みあなどるべからば。うやまき親しきよ
より。貴き賤しきよ志このひて。愛敬す
る厚薄いあるべし。れご。愛敬せざるを
あつるべし。大和俗訓

仁心を以て物を愛するふい。人倫は於
て。ふとささらあつくをべし。人倫を愛す
るふも次第あり。先づ父母兄弟を愛す

るい。仁を行ふ本あり。主君い父母よりひ
こし。次ぎ小親類。朋友。次ぎは萬民を愛
すべし。同上

又其次ぎに。鳥けだもの蟲魚を愛して。
みだりよ殺さば。次ぎは草木を愛して。
みだり小伐らば。これ人哉憐み。物を愛
する次第なり。同上

第六章

朋友のまぐちなりい。仁をたすくる徳小
して。信を以て司ごる習ひあるに。友の
我よ信を以て來たりまぐちらむと哉。
思ひねがふ如くよ。先づ忠なるより。信
を以て施すいまれあり。然るる人よハ
信をもち來たきこしこいひて。我が方
よりい。更小信を守りはどいるを。知
らぬ人多し。大和中庸

六ふくよ。能くまぐもる道を以て守
り行はずして。人よ。我よ能く信を守
り悔どまれ。押し付けいふと。大よそ
むなり。其悔どるべき友ふらば。先づ
こふくよ。信の道。守り施して。六ふ
又友も我よ信を守り來たるべし。同上

第七章

人皆良知あり。教へざれども。幼より親

を愛し。少し長ぐて。兄。友。やまふ。聖
人の教へ。天下の人の生まれつゝ。ざ
るを。志らしめ。行はしめんと。ふ。非
ず。生まる。つゝ。ざる。と。教へても。ふ
ざたり。其人よ。も。こ。より。生まれ。ほ。きた
る。善心ある。根本。こして。み。ち。び。ま。開。き
て。是を。た。し。廣。め。さ。せん。こ。あり。大和俗訓
故に人と生まれて。い。必ず。學。を。た。ん。ば

あるべからば。學ぶまのい。必ず道を志
らすんば。何る處のらば。道を志らば。必
ず行はずんばあるべからば。同上

古の聖人すら。ふか師ふ志さかひて學
びたまふ。況や今時の凡人。學ばせしそ
い。道を志りがさし。小藝だふも。師ふく
習ひなくして。い。ふし。の多し。學ばせし
て道を得んとい。萬々此理ふし。同上

書を見て藝を學ぶい。卑きより高きより
登り。近きより遠き小至るの心なり。遠
き處も。出でたつ足元より初まりて。年
月をまくり。高き山も。ふそやのちりむ
おより成りて。あま雲たふびくまぞお
ひ登れると。貫之も書ける。實にさると
ぞいし。女小學

わのき子弟は。こもづら。父母の家は在

りてハ。父母ははつへて。以てははまき城
よしとす。又家事をよく勤めて。おこた
らず。父兄の勞は代をるべし。かく勤め
行ひて。少しもひはらば。書をよみ。學
問し。或ハ藝を習ひ勤むべし。かくのこ
こく勤むれば。以てまふくして。妄念お
まらず。家道訓

第八章

心の中いさぎやふして。青天白日の
まごころ。明白なるべし。心の中は物をた
くをく。おほひくらほすべからば。思慮
はぬるく。やいしくまぐし。何さくあら
くまべからず。大和俗訓

我が身の内。少しふる皮をたへ。髪のも
だふも。父母ふうけたれば。みどりふそ
まふひ傷るハ。不孝あり。況や大ふる身

命を我が私のもたごして慎まざれば飲食
をほしくいまふし。元氣をそひなひ。病
ひを求め。生まれつきたる天年をみど
かくして。早く身命を失ふと。不孝とい
たり。愚ふるこの形。養生訓

我が身朝夕飲食の俸養は。がろくして。
身をば労働すべし。おほい多量で。身を安
逸すべし。らば。家道訓

第九章

善も悪も。必ず小を積みて。大よ以たる。
故小善ハ小なりとて。をつべし。らば。悪
を小ありとて。行ふべし。らば。大和俗訓
凡そ人の身のまご多量れど。ほい。免て
いへば。言と行ひとの二つは。すまじ。言
をつし。みて。信よし。行ひをつとめて。
篤くほし。め。身修まる。故よ言行を

つゝと罵くするは。身を修むるの道
なり。同上

言ふといやすく行ふといつゝ。故よ
言ひをくつていひ。行ひい言よりをば
す。かくのぶこくすまば。言こ行ひ
こ相違ふ。口ふ言ふと。あまりありて。
身に行ふと足らざるを。是言行のそむ
くなり。をづべし。同上

言をば必ず信よをべし。かりそめの少
しなるをふも。いつなるべし。其事
は少なりとも。心を害するやが大
あり。悔ふとの道を失へばなり。故よ萬
の事うるは。くとも。いつををいふ
を。人よ非ず。心よいつなりと知らば。以
ふべからむ。いつなりと知りて。我が心
を。何ぞむくい。罪ふ。同上

第十章

怒りをいまいむるの道理をいふ。凡そ怒りよほきて愚よして怒り病ひよよりて怒るは是非乃論よ及ばず其外は多く我を理よして彼は無理なる故よおこるあり。よかるに無理をいふ人からのもの。先づは愚人よしてもと取るうたらぬものよまき。反てふむん

ふるとよ思ふべきあり。和語陰陽録

然れば勝きたる人。又を學問したる人。ふどならべ。人よ對して。是非をあらそひ。目を以からし。臂をか、げて怒るとい。必ずあるまどた道理よ非ず也。同上

第十一章

人乃よまき。何しきを見るも。みふ我が身の鏡あり。善哉見てい。是を學び。惡を見

てい。我が身よも是ありやとのへりみるべし。かくのぶごくまれば。人の善惡を見て。そふ我が身は益とある。人の阿したをそしらずして。我が身は之の里みるべし。家道訓

徳行い。我より上なる人を見てうらやこ。彼よ及ばんとを思ふべし。をまてよ乃ぞみて。我が身を高しとおまふ。徳の

らば。大和俗訓

第十二章

世よい。身の福祿。我ぶごもふき人多し。上を見て。我が身をあきたらば思へば。大富貴なる人も。願ひ多く。其欲かぎりなくして。樂しそふし。下を見れば。分よ安んできて。樂しむ多し。或る人の歌ふ。上を見れば。はてしもあらぬ世の中ふ。わま

ほごもふた人もふそあれ。とよめるが
ぶこー。大和俗訓

親戚朋友の貧しきもの。我が物をから
ば。我が力ふ志とがひて。何たふべし。あ
たふまぢ。我が仁愛の道行をれて。我が
心小快し。彼も我が恩よ感ぢ。家道訓
人の器物をか軽とを好むべのらば。人
をさまたぐるを。遠慮すべし。入用あり

ごもふるべきふどい。不自由をふらへ
て。人乃器をのるべのらば。もー已むと
我得ぢして。器をからぢ。そふなふ。塵の
らば。用ひ終いらぢ。早く返すべし。同上
人の書をからべ。そふふひ汗すべのら
ば。雨だ里。水けぢり。猫鼠。水。火。油膩。小兒
のふせぎをすべし。かきる書い。器ふ入
れおきて。見る時取り出だすべし。もー

小學修身書 卷之一

そこなひ汗とぞおまきふひて。其あやま
里を謝して返すべし。是又百行の一なり。
同上

小學修身書卷之一

定價金五錢八厘

明治十六年五月十一日出板板權所有届

文部省編輯局藏板

